

Ⅲ. 整備コストに関する論点

7. 公共事業関係費の規模

公共事業関係費は多すぎないか

- 公共事業関係費は既にピーク時の半分以下まで減少
- 現在、社会保障関係費は公共事業関係費の約3倍まで増加

(1) 社会保障関係費と公共事業関係費の推移 p29

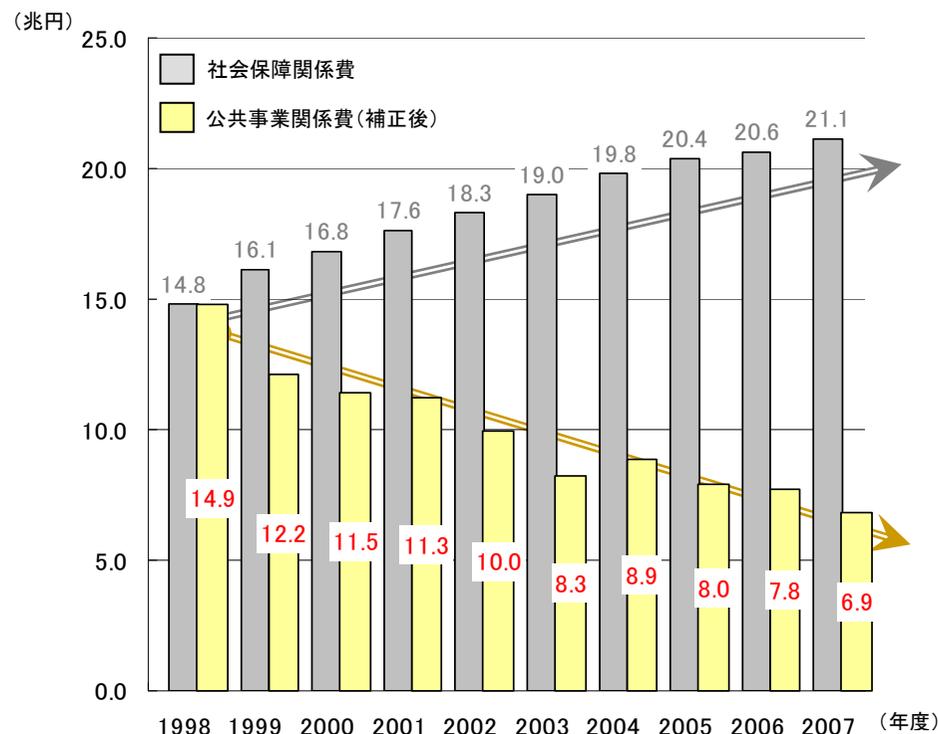
(2) 普通国債残高の増加要因 p30

(1) 社会保障関係費と公共事業関係費の推移

- 一般会計予算における 2007 年度の公共事業関係費(当初予算)は、1987 年度(6.1 兆円)以来の 6 兆円台
- 2006 年度以降はピーク時 1998 年度(補正後)の半分以下
- 一方、社会保障関係費は増大し続けている

a. 一般歳出における公共事業関係費と社会保障関係費の推移

- ・ 社会保障関係費の増加をいかに抑えていくかが大きな課題
- ・ 公共事業関係費の削減によるこれ以上の補填は無理
- ・ 今後大幅な増加が見込めない公共事業関係費は、投資先を絞らざるをえない状況



社会保障関係費
(現役世代への投資)
1.4倍に増加
公共投資関係費の約3倍

公共事業関係費
(将来世代への投資)
半分以上に減少

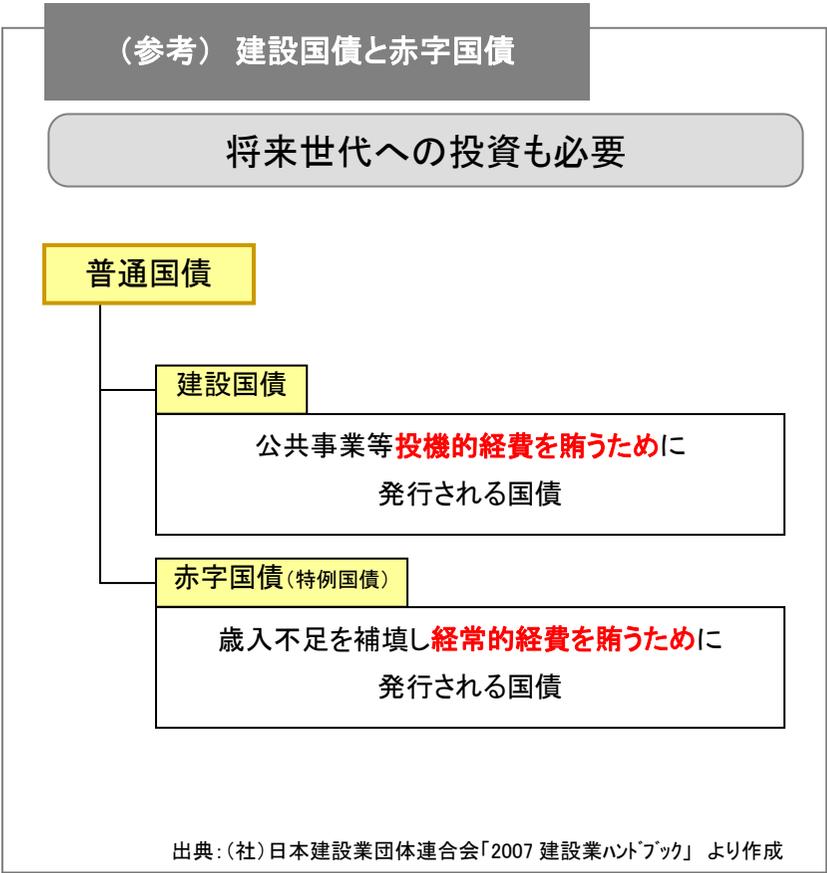
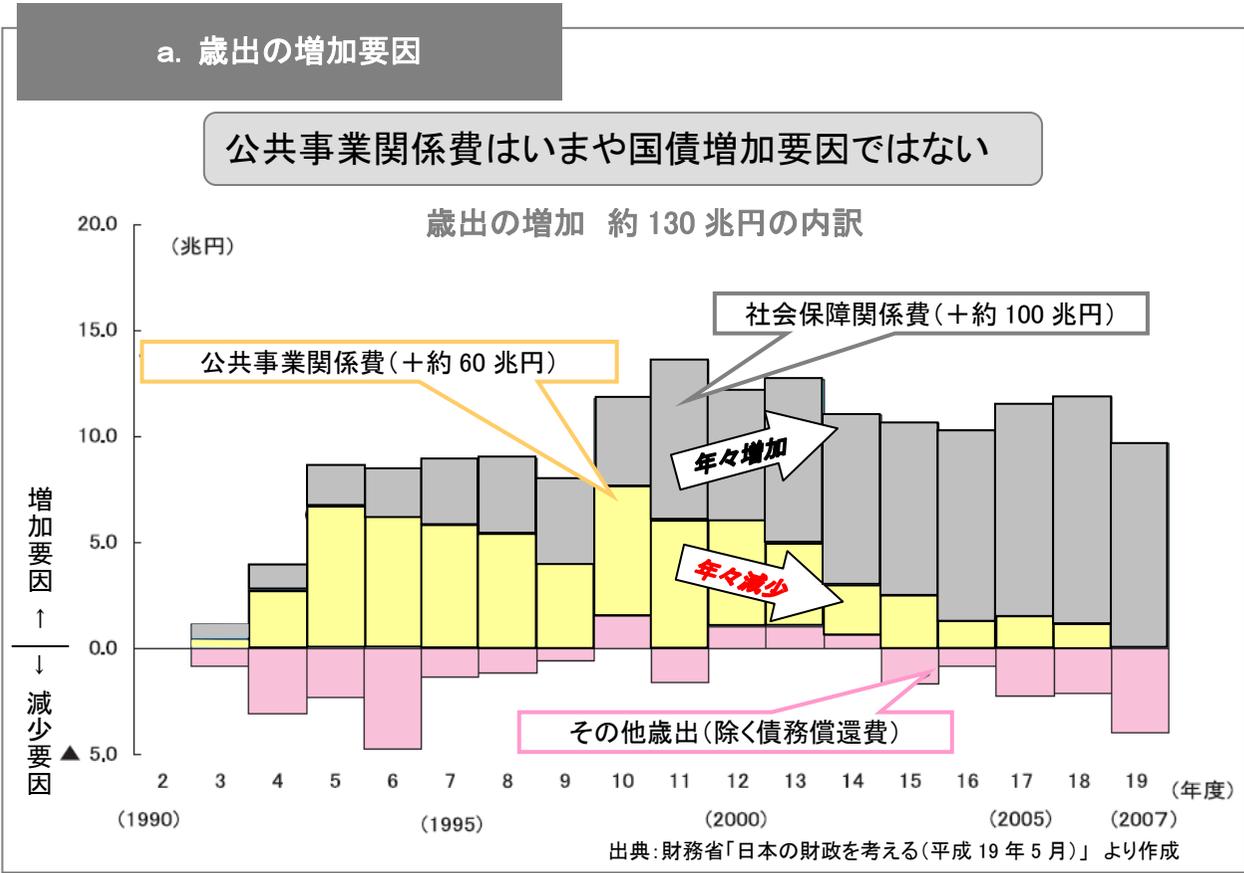
出典:財務省「日本の財政を考える(平成19年5月)」より作成

(2) 普通国債の増加要因

○1990～2007 年度の普通国債残高は約 380 兆円増加

(税込等の減少:約 140 兆円 歳出の増加:約 130 兆円 その他の要因として、国鉄等債務承継・不良債権処理等)

○この歳出の増加要因 : (90年代)公共事業関係費の増加 (近年)社会保障関係費の増加



Ⅲ. 整備コストに関する論点

8. 諸外国との投資水準の比較

日本は諸外国に比べて投資水準が高くないか

(指標: 一般政府総固定資本形成/GDP)

○この指標は参考程度にとどめるべき

○各国の投資水準は、ある年度だけを見て単純に比較できるものではない

(1) 社会資本整備の投資水準に影響を与える主な事柄 p32

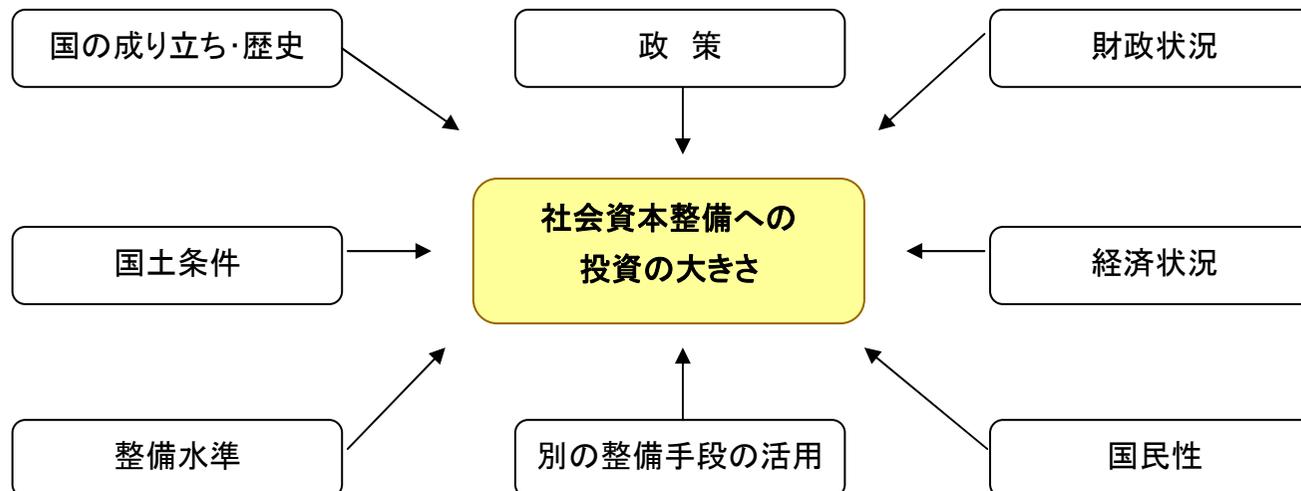
(2) **参考** 投資水準の国際比較(一般政府総固定資産形成/GDP) p33

(1)社会資本整備の投資水準の対外比較について

- 一般政府総固定資本形成/GDPの指標は参考程度にとどめるべき
- 社会資本整備の投資水準は各国の様々な事情を反映している
- 投資水準が適正かどうかは、ある年度だけの投資金額の大小だけでは判断できない

a. 社会資本整備の投資水準に影響を与える主な事柄

社会資本整備の投資水準は、各国が過去どのように国を造ってきたのか、将来どのような国にしていくのかという、国家運営のあり方によって、大きく変化する

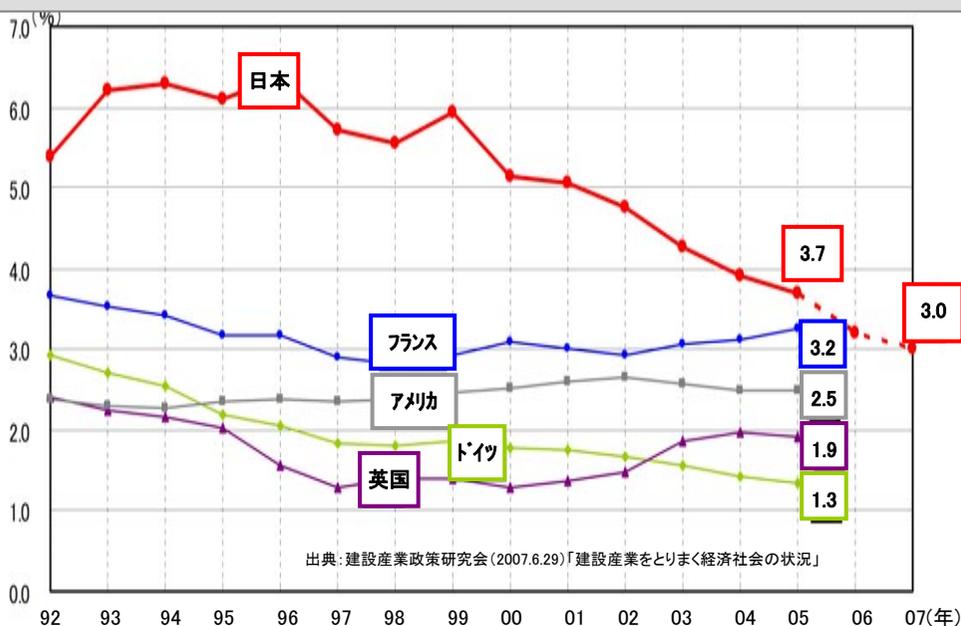


(2)参考：投資水準の国際比較(一般政府総固定資本形成/GDP)

- 日本の投資水準は、バブル経済が崩壊した90年代中頃より、投資額は急激に落ち込んだ
- 公共投資削減で2006年以降には、GDP比でフランス等と同等の投資水準になる見込み
- 近年、中国・韓国の水準が上がっている

a. 欧米先進諸国との比較

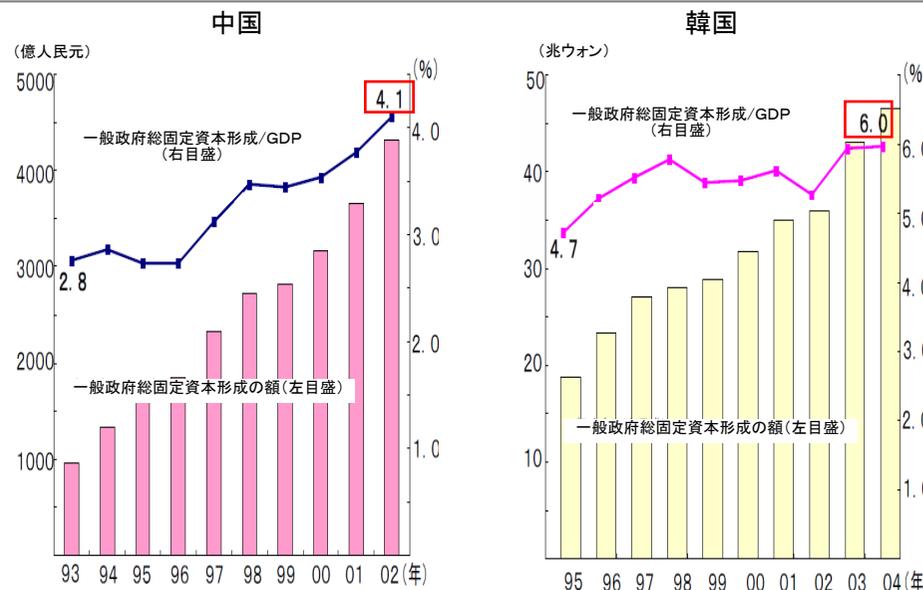
日本の投資も欧米先進国並みの水準となってきた



日本 : 1992~2005年は実績(1992~2004年はOECD National Account、2005年は国民経済計算確報による)
 2006~2007年は推計(内閣府資料及び政府経済見通しより推計(年度ベース))
 欧米諸国: 1992~2005年は実績(1992~2005年はOECD National Accountより)

b. 中国や韓国の状況

中国や韓国は高水準の投資が続いている



出典データ:OECD "National accounts"
 出典:経済財政諮問会議(2007.5.8)参考資料「真に必要な社会資本整備と公共事業改革への取組」

9.建設コスト

日本の建設費は高すぎないか

- 脆弱な国土と厳しい自然条件が建設費を押し上げている
- 欧米諸国で整備されている社会資本と比較すると一目瞭然である

(1)国土条件の違い p35

(2)国土条件の違いによって生じる工事費の差異 p36

(1) 国土条件の違い

- 日本の国土は脆弱であり、かつ厳しい自然条件にある
- 人口の大部分が集まる沖積平野は、地盤沈下や液状化等が発生しやすい災害に対して脆弱な地盤
- 細長い国土・脊梁山脈・河川・海峡による国土の分断
- 地震・台風・大雨・豪雪等の発生

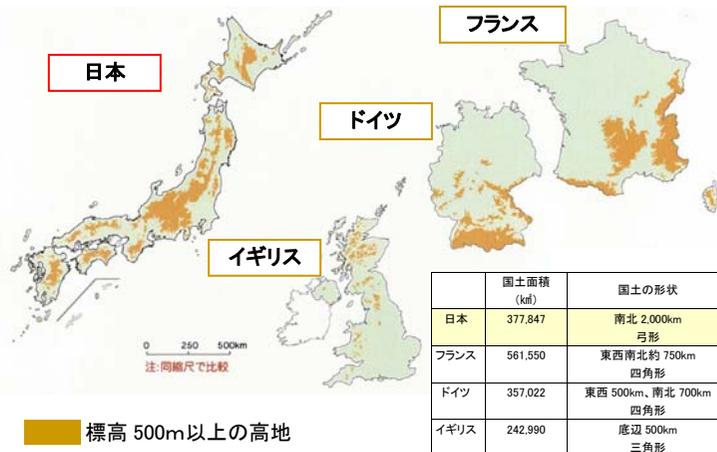
a. 脆弱な国土と厳しい自然条件

| | | |
|------------------|-------|---|
| 地 形 | ①国土形状 | 南北 2,000km に及ぶ 細長い国土 |
| | ②脊梁山脈 | 国土の中央部を 山地が分断 |
| | ③四島 | 海峡による 陸地の分断 多数の島しょ部 |
| | ④河川 | 河川による 陸地の分断 河川は 勾配が急で短い |
| | ⑤平野 | 海岸線と山間盆地として 狭い平野 が連なっている (国土全体の 14%) |
| 地 質 | ⑤軟弱地盤 | 大都市のほとんどが 軟弱地盤の上 |
| | ⑥地震 | 多発する地震 (M6以上の地震の約 20%が日本) |
| 気 象 条 件 | ⑦豪雨 | 多雨 : 梅雨・台風による降雨の集中(年間平均降水量 1,714mm、ヨーロッパの約 2倍) |
| | ⑧豪雪 | 国土の 5割が豪雪地帯 に指定されている |

出典:(財)国土技術研究センター資料 より作成

b. 細長い国土と脊梁山脈

日本は国土が細長く、中央部を脊梁山脈によって貫かれている



出典:(財)国土技術研究センター資料

c. 一級水系分布図

多くの河川が狭い平野を分断している



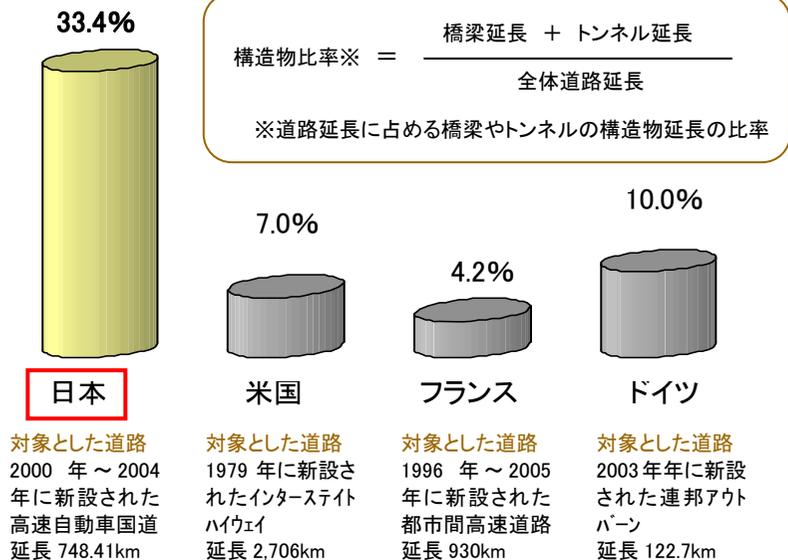
出典:(財)国土技術研究センター資料

(2) 国土条件の違いによって生じる工事費の差異

- 日本は細長い国土で、海峡と脊梁山脈、河川により分断されている
- そのため、橋梁やトンネル等の構造物の比率が高くなり、その分コストがかかる
- また、地盤の状態や地震の発生頻度等も、構造物の設計に大きな影響を与えている

a. 国土構造物比率の違い

日本は構造物の比率が高い



出典: (財) 国土技術研究センター資料 より作成

b. 実物比較

フランスの大部分の地域は耐震設計の必要がない

阪神高速道路の橋脚



シャルルドゴール空港のアクセス道路の橋脚



出典: 第2回社会資本研究会(2007.3.29)国土交通省補足説明資料